銀賞

市民賞

上谷　虹熙

かみたに　こうき

千葉県立京葉工業高等学校 建設科

てをとりあって

～チャイルドマインダーを利用した「こども」を育む集合住宅～

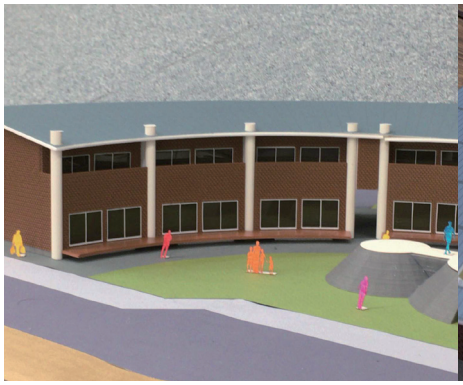
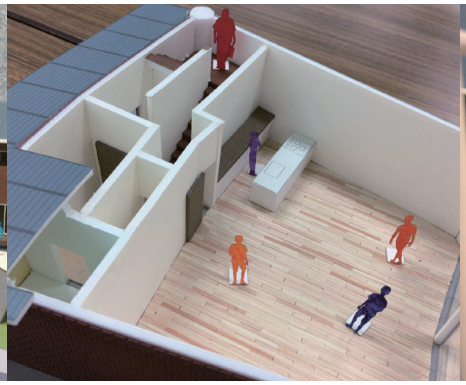
今、社会では待機児童などの「こども」の問題が多くある。また、現代の集合住宅は近所付き合いが少なくただ住んでいるだけのように感じる。
そこで、自宅でこどもを家庭的な保育サービスを行う「チャイルドマインダー」と取り入れることで、昔の長屋の住人のように手を取り合い、協力しながらこどもの成長を見守るような関係を築く。
また、こどもが成長し、帰って来ても一丸となって温かく迎え入れてくれる、こどもにとって第二の家になるような集合住宅を提案する。

千葉市内の住宅が多く建設されて若い世帯が増える地域に建設する集合住宅の計画である。
意味をもった集合住宅を設計したいところから始まり保育施設が不足していることから、出生数と待機自動の数をグラフにより示し社会性をテーマとし設計されているところが素晴らしい。ここに三人程のチャイルドマインダー（自宅や訪問による少人数による家庭的保育）が居れば両親は安心して仕事に集中できるであろう。
一般集合住宅では隣近所との付き合いが希薄になるがコモンスペースの公園を中心としてウッドデッキを中間に挟みリビングとつなげていく自然なつながりでデッキが廊下となり住戸連続し隣との交流が必然的に促進されることが伺える。逆にプライバシーがどうかと思うがここはてをとりあい「こども育む」目的をもった住人が集う共同住宅なので問題がないであろう。上階にはプライベートな寝室が配置されてバルコニーは公園からの視線を遮るものとなっている。良く出来た円形建物の模型からも、公園中央から見るコンクリートの円柱はこどもにとって柔らかい印象を与えており、列柱がシンボリックで屋根から突き出るデザインも綺麗で設計者としての可能性を感じられる。高校を卒業してからも将来がとても楽しみである。

審査員：蒲生　良隆

てをとりあって

チャイルドマインダーを利用した「こども」を育む集合住宅の提案

1 設計趣旨

何か「意味」の持った集合住宅を作りたい。

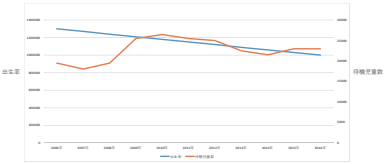
↓

「意味」に「こども」を結び付けることにした。

・今の「こども」の社会問題

近年，少子化社会で子供が減ってる一方，保育施設が足りず，待機児童が減らない社会問題がある。

出生数と待機児童数の関係



・今の集合住宅は近所付き合いが少なく，住むだけの役割のように感じる。

⇩

そこで，自宅などでこどもを家庭的に保育サービスを行う「チャイルドマインダー」を取り入れることで，集合住宅内に住むチャイルドマインダーがてを取り合い，協力しながらこどもの成長を見守る。また、こどもが成長し，帰って来てもみんな一丸となって暖かく迎え入れてくれる，第二の家のような今はない新しいスタイルの集合住宅を提案する。

2 対象敷地

・四街道
徳洲会病院

敷地は住宅の多い千葉県千葉市若葉区千城台北駅周辺。この近隣には住宅が多く建てられ、若い世帯が増えると考えられる。

そして、働く人が増えると待機児童も増えると考えられる。

しかし、この近辺は保育施設が少ないので対象敷地とした。

・千城台北小学校

・千城台北駅

3 イメージ

チャイルドマインダーたちが公園を中心にてを取り合い，伸び伸び遊ぶ子供を見守るイメージ。

4 ダイアグラム

こどもが遊ぶ公園。

⇩

保育施設の保育室の役割を果たすリビングが公園をぐるっと囲む。

⇩

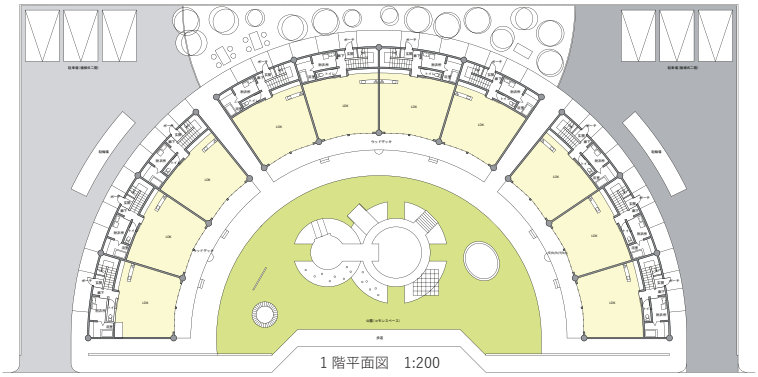
外側にプライベートスペースを設け，プライベートもしっかり守れるようにした。

中心に広い公園があり，こどもがのびのび遊べる。

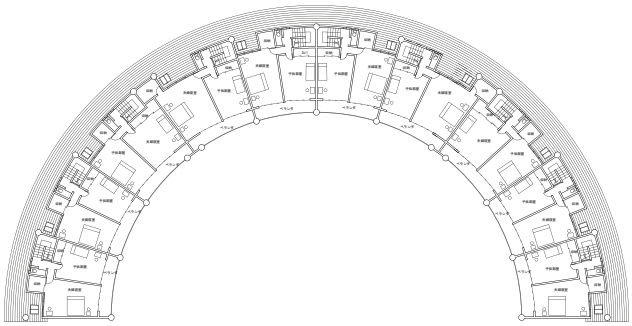
各リビングの前には広いウッドデッキがあり，ここで靴を脱いで直接中に入れる。

リビングは広く、部屋で遊べる。また，窓も大きいので，室内にいても公園で遊ぶ子供を見守ることができる。

リビングのドアを出てから２階までプライベートスペースになっており，子供が遊ぶ場所としっかり分離されている。



1 階平面図　1:200



2 階平面図　1:200